

指定管理者評価シート			
事業名	こども劇場管理運営	所管課(電話番号)	子ども未来局子ども育成部 子どもの権利推進課(211-2942)

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市こどもの劇場 やまびこ座	所在地	東区北27条東15丁目1-1
開設時期	昭和63年(1988年)6月	延床面積	1495.37㎡
目的	人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他活動に資する。		
事業概要	人形劇等の制作・発表の場の提供、人形劇等の制作に関する指導ならびに資料収集・情報提供、講演会・展示会・講座		
主要施設	ホール、会議室(1室)、研修室(1室)、美術工作室(1室)、ロビー・展示室		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会		
指定期間	令和5(2023年)4月1日～令和10年(2028年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:札幌市こどもの劇場「やまびこ座」は、全国でも数少ない子ども専用劇場として、子どもを対象とした人形劇、児童劇等を専門に取り扱う施設であるという特殊性から、指定管理者には貸館業務にとどまらず、専門的知識や豊富な経験を有する適正な人材を確保し、指定管理者自らが人形劇、児童劇等の制作及び発表を行うこと、並びに担い手である制作団体を育成することが求められ、特に担い手の育成については専門性と継続した取組が不可欠であるため。		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、事業の計画・実施業務、施設の使用承認業務等		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和5年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』</p> <p>札幌市こどもの劇場やまびこ座は、「人形劇、児童劇などの制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」を目的に設置された施設である。</p> <p>全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇などに親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>人形劇や演劇等、子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては幅広く受け入れ、優れた作品を上演できるよう支援を行った。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作ると共に、上演する団体の支援者となることに努めた。</p>	<p>・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践することができた。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい劇場作りに努めた。</p>	A	B	C	D
<p>施設を設置目的及び役割等を踏まえた基本的な方向性が明確化された方針となっている。</p> <p>また、施設の特徴を踏まえ、平等利用とともに、専門性を併いながらも市民目線のサービス提供が積極的になされている。</p> <p>今後も施設の設置目的に基づいた施設管理を継続して行っていくこと。</p>						

▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進

環境行動マニュアルに基づき、環境保全を意識しながら業務を推進した。
環境保全に配慮した行動を職員や利用者に周知し、エネルギー使用量削減の啓発に努めた。

・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道、ガス等)の節約に努め、施設運営を行うことができた。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

- ▼ 統括責任者を1名配置した。
- ▼ 事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。
- ▼ 人材育成

(1)派遣研修(劇場運営関係)

国内外の人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門性向上に努めた。

- ・こども文化セミナー参加
9月23日(土・祝) 職員4名
- ・こどものまなび塾参加 職員1名
10月5日(木)～8日(日)「遊び心セミナー」
10月19日(木)～20日(金)「手作りおもちゃ」
10月26日(木)～28日(土)「昔あそび」
11月9日(木)～10日(金)「わらべうた」
11月25日(土)「読み聞かせ」
12月7日(木)、14日(木)、1月11日(木)
「あそびを企画」
1月14日(日)「MASOBOカーニバル」
- ・広域文化支援ネットワーク形成事業
9月22日(金)
講師派遣:市民劇団1名(北海道厚真町)
9月30日(土)～10月1日(日)
舞台スタッフ派遣:職員1名(北海道ニセコ町)
2月9日(金)
人形劇出張公演対応:職員2名(福島県)
2月11日(日)
能登半島地震チャリティイベント対応:職員1名(福島県)
9月2日(土)～3日(日)、10月7日(土)～8日(日)、
12月23日(土)～24日(日)、1月13日(土)～14日(日)、
2月10日(土)～11日(日)、3月22日(金)～25日(月)
人形浄瑠璃ワークショップ対応:職員3名(福島県)
- ・砂川人形劇創作体験プログラム
6月1日(木)～3月17日(日)
講師派遣、講師補助:職員1名
- ・地域別劇場・音楽堂等職員舞台技術研修会(北海道地域)
11月8日(水)～9日(木) 職員2名
- ・こども人形劇フェスティバル in sunagawa
3月17日(日)職員3名

・管理業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。

・劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者に関わるべく多様な場で研鑽に努めることができた。施設利用者のニーズに応える市民サービスの向上につながったといえる。

・職員の学び合いの場として、想像力や協力する力を育む人形劇創作(人形劇ゼミナール研修)や、子どもの健全育成の実践研修(こどものまなび塾)を通し、子どもたちの体験・表現活動への理解とスキル向上につながり、職員育成の場として非常に有効な機会とすることができた。

管理運営組織は適性に確立されており、緊急時の体制も整っている。子どものための専用劇場という特異な施設であることを念頭において十分な派遣研修が実施されているほか、多様性研修によりソーシャルインクルージョンに関して職員の意識向上と、人材育成の成果に結びつけることができた点は評価できる。今後も継続して、職員の資質を向上させ、利用者満足等に反映されるように努めること。

- (2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修
- ・職員研修
 - 人形劇ゼミナール(人形劇指導研修)※児童会館部門と共同
 - 4月27日(木)～7月17日(月・祝) 職員3名
 - ・文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業「文化の扉をひらこう！」
 - 研修「障がい児への適切な理解と支援」
 - 11月26日(日)職員3名
 - ・将来構想/広報戦略プロジェクト
 - 通年 職員6名
 - ・刈払機取扱作業安全衛生教育
 - 5月25日(木) 職員1名

- (3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修
- ・コンプライアンス研修
 - ・多様性研修
 - ・職位階層別研修
 - ・目標管理制度
 - ・個人情報保護研修
 - ・評価者研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

- ▼財団内のネットワークシステムを活用した情報共有、担当者間や所属職員間で定例の職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。
- ▼日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。
- ▼職員によるプロジェクトを組織し、将来の劇場の在り方や広報戦略を検討した。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

- ▼ 下記の業務について再委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。

	業務名	契約業者名	実施月	契約方法
1	清掃業務	東亜産業(株)	通年	指名競争入札:複数年
2	機械警備業務	帝国セキュリティ(株)	通年	指名見積合せ:複数年
3	自動扉保守点検業務	三和シャッター工業(株)	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
4	空調衛生設備保守点検業務	パナソニック産機システムズ(株)	通年	随意契約(特命):複数年
		南ケンブラック	5～8月・1月	随意契約(特命):複数年
		北菱産業埠頭(株)	8・2月	随意契約(少額)

・今期の指定管理業務の事業の柱の一つに掲げた「ソーシャルインクルージョン(社会的包括)」機能を有した事業として、文化庁からの事業受託の実践に伴い、関係者・団体と協働での新たな取組と研修の場の設定により学びを深められた意義は大きい。職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができた。

・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。

・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。

・施設の良好な維持管理のため、事前に承認を得た業務について専門業者への再委託を行った。

5	オーバースライダードア保守点検業務	三和シャッター工業㈱	8・11・3月	随意契約(特命):複数年
6	消防用設備等保守点検業務	(消防用設備)道民防災コンサルタント㈱	4・10月	指名見積合せ:複数年
		(防火対象物)道民防災コンサルタント㈱	10月	指名見積合せ:複数年
		(自家発電設備)道民防災コンサルタント㈱	10月	指名見積合せ:複数年
7	舞台吊物及び照明設備保守点検業務	㈱池下電設	7・2月	随意契約(特命):複数年
8	舞台音響設備点検業務	㈱池下電設	7・2月	随意契約(特命):複数年
9	除排雪業務	北三重建㈱	12~3月	指名見積合せ
10	自家用電気工作物保安管理業務	大崎電気管理事務所	通年	随意契約(特命):複数年
11	塵芥収集業務	(一財)札幌市環境事業公社	通年	随意契約(特定)
12	建築基準法12条に基づく点検	(非常照明)道民防災コンサルタント㈱	10月	随意契約(少額)
		(機械換気)道民防災コンサルタント㈱	10月	随意契約(少額)

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
運営協議会(第1回) 11月7日	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業報告(上半期) セルフモニタリング報告(上半期) 事業や運営についての意見集約
運営協議会(第2回) 3月15日	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度事業報告(下半期) セルフモニタリング報告(下半期) 事業や運営についての意見交換
<p><協議会委員> 人形劇団代表、児童劇団代表、やまびこ座読み語りの会代表、元北星学園大学文学部教授、青少年育成委員会委員長(劇場所在地域)、札幌市子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市こども人形劇場館長</p>	

利用者説明会 12月20日	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用、劇団支援事業について 公演スケジュール調整 各劇団の近況報告
------------------	---

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施している。
- ▼ 金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。
- ▼ 当財団の内部監査、公認会計士による外部監査を導入し、会計処理などが適切に行われているかを検査した。

・運営協議会を設置し、委員の方へ事業実施状況などの報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。

・12月に実施した利用者説明会では、施設からの連絡事項や今後の劇団支援事業の内容について説明し、各劇団からの近況報告を行った。利用者との相互理解の場とすることができた。

・現金の取扱いについては、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。適切な取扱いを行うことができた。

運営協議会や利用者説明会を実施し、利用者のニーズ把握に努めており、評価できる。引き続き、関係機関との連携を図り、より良い施設運営につなげていくよう努めること。

業務・財務検査の結果、記録・帳簿等の整備、保管、事業等の報告について、適正な事務処理がなされていることが確認された。

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心掛けた。 ▼ 意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。(令和5年度の意見箱への要望・苦情は0件) <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等) ▼ 劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 <table border="1" data-bbox="403 929 970 1010"> <tr> <td>業務財務検査 3月5日</td> <td>・業務検査 ・財務検査</td> </tr> </table>	業務財務検査 3月5日	・業務検査 ・財務検査	<ul style="list-style-type: none"> ・意見箱へご意見や苦情を受けた場合、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、苦情の低減に努めるよう体制を整えて備えた。 ・直接いただいたご意見については、職員間で内容を共有して原因分析を即座に行い、市民に対して丁寧な説明を行った。 ・セルフモニタリングにより自己評価を行い、次の事業運営の改善につなげることができた。 ・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。 							
業務財務検査 3月5日	・業務検査 ・財務検査										
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。 ▼ 職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。 ▼ 法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。 ▼ 職員の勤務形態、家族状況などに応じて年金保険、医療保険に加入した。また、必要に応じて適正に届出などを行った。 ▼ 常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。 ▼ 正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。 ▼ 労災保険加入と、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。 ▼ 法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働関係法令に関する理解を深めると共に、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。 	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。			
A	B	C	D								
労働関係法令遵守のための取組が積極的に行われている。独自にストレスチェックを行うなど、雇用環境の維持向上に向けた取組も進められていることは評価できる。今後とも労働関係法令遵守及び雇用環境の維持向上に努めること。											
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 利用者の安全確保を第一に優先し、市民サービスの向上を図った。 ▼ 維持管理計画の下、日常から点検を行い対応を行った。 ▼ 保険は管理業務仕様書にある内容を補償するものに加入し不測の事態に備えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行うことができた。 	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4">専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。</td> </tr> </table>	A	B	C	D	専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。			
A	B	C	D								
専門業者への再委託を含め、施設全体が良好に維持管理されている。引き続き、市民サービスの向上及び施設の安全性に配慮した維持管理を行うこと。											

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

- ▼ 第三者委託により実施する業務については、専門業者に依頼し、適切な監督と履行検査を行った。
- ▼ 備品管理については、市民の利用に支障がないよう、施設内の設備や使用機器類の日常点検や清掃等を行った。
- ▼ 敷地内の植木植栽物については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。
- ▼ 駐車場内での事故等に十分注意し、利用者以外の進入がないよう、車両の監視、誘導等に努めた。
- ▼ 施設・設備等の不備や故障については、速やかに修繕を行った。

<修繕の実施>

	修繕内容	修繕完了日
1	耐火金庫タイヤル修理	8/9
2	MD/CDプレーヤ修繕	11/7
3	卓上丸のこ修繕	12/6
4	除雪機修繕	2/7
5	トイレ片開き戸修繕	3/14

▽ 防災

- ▼ 防災計画を策定するとともに、利用者及び職員の参加による防災研修及び訓練を実施した。
 - 第1回 10/12(参加7名)
 - ・消防設備の使用方法的確認
 - ・通報・消火・避難誘導の自主訓練
 - 第2回 3/12(参加7名)
 - ・停電発生時の避難誘導・機器操作の自主訓練
- ▼ AED・救護訓練を実施した。
 - 10/12(参加7名)
 - ・救急対応、AEDの使用方法的確認

・日常的に施設内外の清掃に努めていることから、観覧者からも「施設が清潔」「子どもと安心して利用できる」とアンケートなどで好評をいただいたことは評価できると考える。

・管理業務及び事業運営にあたり、新規に備品を購入し、利用者の利便の向上に努めた。

・日常的に、施設利用者に対しても利用上の注意や安全確認について留意するよう促した。

・軽微な修繕については、札幌市の承認を得て実施した。

・訓練では、劇場内の消防設備の使用方法的や効果的な避難誘導、消火方法、停電発生時の施設内の状況確認、AEDの使用方法的を確認し、不測の事態に備えることができた。

多くの子どもたちが利用する施設であるという施設の特性を踏まえ、防災研修・訓練等について、引き続き、日頃の備えを行うこと。

(4)事業の計画・実施業務

▽ 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務

- ▼ 令和5年度は、共生社会実現の観点から社会的包摂機能推進の事業をスタートし、文化芸術が果たす劇場の未来ビジョン実現に向けてさまざまなプログラムを展開した。劇場、養護学校、特別支援学級での文化鑑賞、舞台創造の機会の創出、手話通訳を取り入れた作品作り等、障がい児の文化芸術活動を支援する場を積極的に取り入れた。事業を通して、障がいの有無に関わらず一人ひとりが個性を発揮できる場を創り出し、多様な他者と出会い関わりを経験することによって、「社会とのつながり」を創出することができた。共に手を携え支え合える関係を築くことで、あたたかな地域コミュニティを生み出すことにつながるものである。
- ▼ 一方で助成金の一部不採択により、当初計画していた海外や北海道外の専門劇団の招致等が資金面で難しくなった事業もあった。社会変容を捉え、リサーチや戦略の検討が必要である。

・文化芸術が人々に与える影響の大きさや重要性、子どものための文化施設としての役割を改めて認識することができた。今後も、劇場が市民にとって身近で日常的に利用できる環境で、さまざまな体験の場が設定されるように取組を続け、文化芸術活動を通して誰もが創造者として参加できる社会の実現に寄与していく。

A	B	C	D
共生社会の実現に向け、障害者等による文化芸術活動推進事業を行うなど等、関係団体と協働しながら多彩な公演を実施しており、子どもたちが身近に舞台芸術に親しむ機会を数多く提供している点は高く評価できる。			
今後も関係劇団等との連携を図りながら、施設の設置目的達成に寄与する児童劇等の制作を行うこと。			

▼ 児童会館との協働事業を実施し、子どもたちの健全育成や職員育成モデルとして部門の強みを生かした実践を重ねることができた。

▼ 根幹である劇団育成や人材発掘という面での取組がやや不足した。市民劇団が文化活動を継続できる環境、それに対応し創作活動を支える劇場職員の専門性、人と人をつなげ導く能力と方策が課題である。

・次世代の担い手の確保を含む人材育成や職員の資質向上等、課題の洗い出しと対応する取組が引き続き必要である。

【公演事業】

▼ やまびこ座の開館35周年を記念してさまざまな公演を企画し、やまびこ座とこぐま座で実施した。これまで両劇場の公演事業を支えてきた市民劇団の協力の元、多彩なプログラムを展開することができた。また、テレビやラジオ等のマスメディアにも取り上げられたことで、事業の集客にもつながった。

▼ 文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業「パペットアートヴィレッジ」や外部団体との協働事業「舞台手話通訳者養成講座」の成果発表公演に、普段両劇場に来たことがなかった市民が足を運び、観劇を楽しんだ。

・劇場が示す「共生社会の実現」など、未来ビジョン実現に向け、今後も関係団体と協働しながら多彩な公演事業を展開していく。また、多彩なプログラムを展開して潜在層を掘り起こし、持続可能な劇場運営につなげていく。

主な公演事業	ステージ数(回)	観客数(人)
ゴールデンウィーク バラ☆バラ☆バラエティーショー	5	231
初心者のための人形劇講座 修了記念公演	1	55
人形劇ゼミナール発表会	1	103
ほしぞらキッズシアター あおぞらキッズシアター	4	204
やまびこ座開館35周年記念 夏の特別公演	3	160
やまびこ座開館35周年記念 人形劇☆大集合	3	321
やまびこ座開館35周年記念 TrueLifeオロロン	2	94
2023やまびこ座夏まつり ～やまびこ王子生誕祭～ バラエティーショー	6	678
やまびこ座開館35周年記念 さっぽろパペットシアター プロジェクト「北のおばけ箱2」 (児童会館貸切公演・主催公演)	4	902
やまびこ座開館35周年記念 アニマルシアター	4	278
やまびこ座開館35周年記念 落語まつり	2	143
元町北小学校アウトリーチ事業 発表会	3	304

ふれアートミニ発表会 (三人遣い・鳴物・舞台裏方体験)	3	92
第52回札幌人形劇祭	5	807
ざ・にんぎょうじょうりユースクラス発表会	1	63
人形浄瑠璃講習会・義太夫講習会発表会	1	72
舞台手話通訳者養成講座 発表公演	2	166
第52回札幌人形劇祭 受賞記念公演	1	234
第31期やまびこ座遊劇舎発表会	1	65
さっぽろ人形浄瑠璃あしり座 定期公演「人形浄瑠璃2024」	3	537
劇☆やまびこ座YOUTH・ やまびこ座演劇講習会発表会	2	224
元町北小学校すぎの子学級 人形劇発表会	1	25
世界人形劇の日 こどもフェスティバル 札幌市児童会館	2	335

【講座事業】

▼ 人材育成事業「初心者のための人形劇講座」で2劇団、財団内の職員研修「人形劇ゼミナール」から新たに2劇団が誕生した。どの劇団も、講座等終了後も劇場の主催事業や自分たちの職場で演目を披露するなど、今後の自立した公演活動の基盤を築いていた。

▼ 「経験者のための人形劇クリニック」には4劇団が参加し、2月に発表公演を行った。自立した劇団活動を行い、良質な作品づくりに取り組める力をつけられるように支援した。

・これまで培ってきた人形劇等における人材育成のノウハウを生かし、若い世代が指導者として次世代への育成を担う流れをつくり、劇場の持続可能な事業展開を進めていく。

児童文化の普及や子どもの健全育成、担い手の育成に尽力していると評価できる。今後、安定かつ魅力的な公演を提供できるよう、新規劇団の育成に関する支援を継続すること。

・人材育成のための講座や講習会はやまびこ座・こぐま座の根幹を支える最も重要な事業であることから、事業参加者や劇団に対する的確な支援を継続して行う必要がある。

(延べ人数)

主な事業	回数	参加人数
初心者のための人形劇講座	13	77
人形浄瑠璃講習会	18	128
義太夫講習会	17	483
やまびこ座演劇講習会	24	159
やまびこ座指導育成事業 「砂川人形劇創作体験 プログラム」	24	141
計	96	988

【子どもの舞台表現活動の推進】

▼ こぐま座、やまびこ座と札幌市内の児童会館が連携し、「児童会館人形劇クラブ活動」への指導を継続して行ってきた。令和5年度は6館の児童会館で人形劇クラブの活動が行われ、劇場職員と市民劇団が児童会館へ指導にあたった。また、国際人形劇連盟（UNIMA）が定める『世界人形劇の日（3月21日）』に合わせて『世界人形劇の日こどもフェスティバル札幌市児童会館』を実施し、児童会館人形劇クラブの子どもたちによる人形劇の連続公演や交流会を行った。子どもたちのいきいきとした姿や表現の可能性を広く発信する機会とし、これまでの取組から一歩進み、より広がりを持った事業展開をすることができた。

▼ やまびこ座の開館35周年記念事業として「北のおぼけ箱2」公演を行った。児童デイサービスに通う子どもたちとやまびこ座・こぐま座で育成してきた子どもたちが共に出演し、劇中に手話通訳者が手話をしながら演じる「ムーブアラウンド方式」を取り入れたユニバーサルな舞台を披露することができた。やまびこ座・こぐま座が関わってきた子どもたちの成長が表れた舞台となり、観客に感動を与える事業となった。また、札幌市内の児童会館の子どもたちを招待して貸切公演も行い、多くの子どもたちが観劇を楽しんだ。

(延べ人数)

	講座名	回数	参加人数
1	やまびこ座遊劇舎	33	194
2	劇☆やまびこ座YOUTH	33	440
3	ざ・にんぎょうじょうりユースクラス	17	231
4	こども舞台体験プログラム「ふれアート」	5	159
5	人形劇クラブの指導・育成	64	520
	計	152	1,544

【ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)の機能を有した文化芸術事業の拡充】

▼ 舞台表現プログラム「パペットアートヴィレッジ」では、障がいがある子どもとない子ども、さまざまな年代の市民が参加して「共に創りあげること」を意識して事業を展開した。人形劇を中心に音楽、ダンス、工作、野外活動といった「あそび」をとおして、子どもたちから湧き出る意欲を大切にすること、さまざまな特性のある子どもたちが伸び伸びと安心して参加できる関係づくりを目指した。最終回では、大勢の観客の前で活動の成果を発表する公演を12月に実施した。子どもたちの一生懸命だからこぼれ出る達成感に満ちた笑顔を、観客へ生きるエネルギーとして届けられたことは大きな成果であった。

▼ さらに一歩踏み込んだ取組として、舞台手話通訳者の養成講座を外部団体と協働で開講し、12月に発表公演を実施した。海外では一般的なサポートとして日常的に組み込まれている「舞台手話通訳」は、日本ではまだ馴染みが浅いのが現状であり、いち早くこの分野に着手できたのは日本の舞台表現活動の中では先進的な取組であった。健聴者も聴覚障害者も一緒に楽しめる良質の作品観劇を「日常」にできるよう次年度以降も取組を進めていく。

・劇場が取り組んできた人形劇の裾野拡大、人材育成の成果を発揮することができた。

・市民と共につくる劇場、地域に根差した劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取組を継続強化していく。

子どもが人形劇等の舞台芸術等に触れるきっかけとなる体験プログラム事業及び児童会館や児童デイサービスと連携した人形劇指導は、人形劇の裾野の拡大において有意義である。加えて、より本格的に人形劇等の制作等を学ぶことができる通年事業は、青少年の健全育成として相応しく、評価できる。

・事業を展開することによって、文化芸術がもたらす効果、差別や偏見等の垣根を取り払う意識上のバリアフリーの力を実感することができた。関わる市民の輪をひろげ、これらの取組を広く発信することで、理解者や支援者の拡大と持続可能な事業実施につなげたい。

障がい児との舞台芸術制作に取り組み、より多くの子どもが文化体験の機会を享受できるようにしたことは評価できる。加えて、先進的な取組として「舞台手話通訳」を組み込んだ公演を実施し、多くの子どもが文化体験の機会を享受できるようにしたことは評価できる。

▼ 人形劇鑑賞等、養護学校、特別支援学級での文化体験ワークショップをはじめ、貧困やさまざまな家庭の事情により劇場に足を運べない子どもたちにも観劇の機会を提供するため、巡回公演や貸切公演、各種ワークショップを実施した。

【地域との共生および関係機関との連携】

▼ 劇場の機能やノウハウを生かし、地域に向けてアウトリーチ事業を行った。人形劇創作ワークショップの依頼を受けた元町北小学校と札幌国際大学に劇場職員と市民劇団を指導者として派遣した。また、砂川市の劇場施設を運営するNPO法人から人形劇創作指導の依頼を受け、「砂川人形劇創作体験プログラム」として講師派遣を行った。人形劇文化の裾野拡大に取り組んだ。

▼ 地域の町内会や企業、団体と連携し例年実施している夏まつりは、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインが5月に廃止されたこともあり、コロナ禍以前と近い規模で実施することができた。地域に愛され地域に根付いた施設として、今後も地域と協働する事業を継続していく。

▼ 劇場の公演活動の充実や劇団支援、地域連携の活性化を目的とする「事業サポーター制度」を実施し、11件の個人協賛と、3件の企業協賛を得ることができた。

【社会貢献事業の取組】

▼ 東日本大震災以降、さまざまな事業を通してつながってきた協力団体と連携し、北海道内外で文化芸術活動を支援する「広域文化支援ネットワーク形成事業」を実施した。

9月厚真町
(中学演劇発表公演への審査員紹介・派遣)
9月ニセコ町
(人形劇イベントへの劇団派遣・舞台スタッフ派遣)
9～3月福島県
(人形浄瑠璃ワークショップ)
2～3月福島県
(人形劇出張公演、能登半島地震チャリティイベントの開催)

【展示室の活用およびその他】

▼ 読み語りの会を実施するなど、市民ボランティアの活躍の拠点として図書コーナー等を活用し、地域の子どものとその保護者に来館いただく契機とすることができた。

・SDGsの達成に向け日本でもさまざまな取組が行われている影響もあり、手話に対する注目が高まっている。単なる通訳としてではなく、舞台表現の一部として役者のセリフや効果音などを舞台上から手話で客席に届けるという高度な技術と表現力が必要な舞台手話通訳者を育成する講座は、今後のやまびこ座・こぐま座の事業を支える貴重な人材の発掘にもつながる機会であったといえる。

・今後も地域の特性を生かして様々な外部団体や関係機関と協働で事業を展開していく。また、地域の文化拠点として、劇場の機能やノウハウを生かした事業を行い、地域の子どもたちの健全育成に役立てていく。

・今後も子どもたちの健やかな成長を文化的視点から守り支援していくため、新たな協力団体や関係機関とつながり、ネットワークを拡げていくことで個々の力だけでは成し得ない課題解決や新たな事業展開につなげていく。

・5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に変更されて以降、読み語りの会を楽しみに来館するリピーター

引き続き、地域と連携した多くの行事を通じて、子どもから大人までの多くの市民が劇場に集い、地域に開かれた親しみあえる劇場でありつづけること。

▼ やまびこ座開館35周年記念事業の一環として、劇場の来場者や札幌市内の児童会館の子どもたちにやまびこ座マスコットキャラクター「やまびこ王子のおともだち」のイラストを描いてもらい、劇場内で展示した。(7月26日～8月20日、作品数589点、来場1,247名)

▼ 北海道新聞販売所と協働で、「夏のこどもぬりえ大会」(8月22日～26日、来場104名)「冬休み子どもお絵かき大会」(1月16日～21日、来場202名)の作品展を実施した。

▼ こぐま座と共同で人形劇観劇スタンプラリーを実施した。市民や観光客にも、気軽に足を運んでもらえる企画を行ったことで、施設の新規利用者獲得やイメージアップをする機会となった。

(カード発行枚数:7,060枚 ※やまびこ座3,843枚、こぐま座3,217枚)

▽ 子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

▼ 関係機関の情報収集を行い、資料の整理を随時行った。市民からの要望に応じ、情報提供できる体制を整えた。

▽ 劇団育成支援に関する業務

▼ 劇団支援策として「札幌市こどもの劇場支援事業」を実施した。各劇団のホール・研修室・美術工作室・会議室利用について、使用料の一部を負担した。

※申請件数227件、利用区分件数699件

・各劇団が劇場を通して交流する機会の提供

- ①GWイベント(5月)
- ②やまびこ座開館35周年記念事業(7～8月)
- ③やまびこ座夏まつり(8月)
- ④札幌人形劇祭(11月)※こぐま座と協働で実施
- ⑤利用者説明会(12月)

・各劇団による自主的な交流企画事業の実施

- ①北海道人形劇フェスティバル(9月)
主催:北海道人形劇協会
- ②人形劇フェスティバルさっぽろ冬の祭典(2月)
主催:札幌人形劇協議会

・市民ボランティアの募集育成
読み語りの会(登録者数9人)

が増えた。幼児や小学校低学年の子どもたちとその保護者が来館し、ボランティアと交流を深めていた。

・前年度に引き続き、地域の企業と協働で展示室の活用を図ることができた。作品展を協働したことがきっかけとなって、2023やまびこ座夏まつりで企業ブースを出展するなど、新たな連携を進めることができた。

・調査に協力する中で、やまびこ座やこぐま座で人形劇創作活動を行っている劇団や子どもたちの活躍を、さまざまな形で発信することができ、両劇場のPRIにもつながった。

・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。

・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケート等を実施し、劇団側に十分な説明や意見交換を行うことで、施設の利用と協力体制を強化することができた。

・市民ボランティアとの協働事業を、市民ボランティアと市民の交流と自己実現の場とすることができた。

関係団体等の調査や情報収集、資料の公開等、舞台活動の拡充に取り組みされており、評価できる。

引き続きプロデュース人形劇をはじめ、市民ニーズを捉え、人形劇文化の発信に努めること。

子どもたちに魅力的な舞台芸術の鑑賞機会を提供するためにも、劇団育成は極めて重要であることから、劇団と連携しながら、育成支援を継続すること。

市民ボランティアとの協力関係が構築されており、共にサービスの向上に努めていることは評価できる。

▽ 人形劇等に関する指導、相談業務

- ▼ 人形劇の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日常的に人形劇について、指導、助言ができる体制づくりに努めた。
- ▼ 公演時や稽古時等において、適宜アドバイスを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを行った。また、初心者のための人形劇講座を実施し、より多くの市民が子どもの文化に携わり、担い手として育っていけるように環境を整えた。

・利用者にとって丁寧にかかわることが制作活動の支援となっている。今後も劇団に対し、上演や作品創造に関するアドバイス、サポートをしていくために指導者、舞台スタッフの育成に取り組む。

引き続き、やまびこ座にしかできない継続性のある専門的な指導に取り組むこと。

・人材育成事業等の広いニーズに臨機応変に対応できるよう、さまざまな関係機関と連携して人材発掘に努める。

▽ その他、設置目的達成に資する業務

- ▼ やまびこ座35周年記念事業：やまびこ座・こぐま座協働事業(7月26日～8月20日)「夏の特別公演」「さっぽろパペットシアタープロジェクト」「おそとでにんぎょうげき場」「人形劇☆大集合」等
1988年に開館したやまびこ座の35周年記念事業を実施した。札幌市内のアマチュア劇団による企画公演、北海道内外の専門人形劇による特別公演、ソーシャルインクルージョンの視点に立ち障がい等の有無に関わらず文化芸術を享受できる未来社会の創造を示唆する公演等を実施した。地域の文化拠点としてのこれからの劇場の在り方を示し、札幌の芸術文化活動の未来を感じることで35周年にふさわしい事業となった。また、やまびこ座・こぐま座のこれまでの人材育成の成果や取組を広くPRすることができた。
- ▼ さっぽろパペットシアタープロジェクト「北のおぼけ箱2」(やまびこ座・こぐま座協働事業(8月10日～11日))
やまびこ座・こぐま座の人材育成事業に参加する小学生から社会人までの人形劇、演劇のメンバーに加え、関係機関の協力を得て障がいのある子どもたちも出演した。関係団体の協力や、これまで築いてきた子どもたちとの関係性、保護者の理解、子どもから大人まで出演者の性質を最大限に生かす柔軟な演出等があり、観劇に来られた市民から高い評価を得ることができた。また、共に舞台を創りあげたという達成感、充実感が参加者やスタッフからも感じられた。

・札幌の子ども文化の可能性を内外に発信する機会とし、劇場が担ってきた役割を市民とともに今一度共有する機会となった。

ソーシャルインクルージョンの視点を取り入れた事業を実施し、観劇者から高い評価を得たことは評価できる。今後も、魅力的な公演を多く市民に提供することで、児童文化の普及に努めていくことを期待する。

・文化芸術活動を通して社会課題にアプローチしていくことは、劇場の一つの使命でもあり、今後もさまざまな人たちが文化芸術を享受し参加できる機会を提供していく。

・市民や社会のニーズに応えつつ、良質な作品づくりを行うことで、やまびこ座・こぐま座の取組として、文化の街・札幌を広くPRしたい。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

▼ 公演回数・観客数 (回・人)

	R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績
上演回数	203	200	201
出演者数	8,379		7,317
観客数	13,377		15,069
上演1回当たりの観客数	66		75

・新型コロナウイルス感染症流行前の実績までは戻ってはいないが、劇場を利用する市民は前年度より増えている。今後も市民が再び劇場へ足を運びたくなるような魅力的な公演や事業を実施し、観劇の機運を高めていく。

A	B	C	D
上演回数は計画どおり実施し、観客数は前年度と比較して増加している点は評価できる。しかし、ホールの稼働率は前年度より低下し、計画を下回る結果となっている。今後とも、市民サービスの拡充を図ると			

▼ 室別利用状況 (件)

		R4年度実績	R5年度計画	R5年度実績
ホール	件数(件)	649	650	596
	人数(人)	21,316	28,000	22,386
	稼働率(%)	75.1	80.0	69.3
会議室	件数(件)	362	400	375
	人数(人)	2,460	2,000	2,056
	稼働率(%)	41.9		43.6
研修室	件数(件)	480	500	411
	人数(人)	5,705	7,600	5,161
	稼働率(%)	55.6		47.8
美術工作室	件数(件)	534	550	502
	人数(人)	4,910	7,000	4,930
	稼働率(%)	61.8		58.4
ロビー等	人数(人)	8,605	10,000	15,101
研修見学	人数(人)	94	400	173
合計	件数(件)	2,025	2,100	1,884
	人数(人)	43,090	55,000	49,807

▽ 不承認0件、取消し0件、減免0件、還付0件

▽ 利用促進の取組

▼ 主催事業、主催公演の際、他の公演、事業への呼びかけを行い、宣伝等に努めた。

・平日のホール貸出件数及び利用率が前年度より下がった。次年度以降、幼稚園・保育園等に団体観劇の案内を送付するなど、平日の施設利用促進に向けて取り組んでいく。

・劇場を利用する劇団からも、さまざまな制限がなくなったことへの安堵と今後の公演や事業での集客に期待する声が聞かれた。

・施設使用承認などについては、条例に基づき、適正に処理を行った。

ともに、公演の魅力の増加や、団体利用の促進など、さらなる利用拡大に努めること。

(6) 付随業務

▽ 広報業務

▼ よりわかりやすいホームページURL (<https://koguyama.jp>) にするために独自ドメインを取得している。また、ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを目指して運営を行った。令和5年度のホームページアクセス数は306,473件(前年度比125.6%)、月平均25,540件、一日の平均840件であった。

▼ 公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)や無料通信アプリLINE公式アカウントからの公演・講座情報の発信を積極的に行い利用者の利便性向上と集客につなげることができた。

▼ 定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)、MA・SO・BO通信(子ども文化の発信)をこぐま座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校5校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。

▼ 公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。

▼ 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」(市内全小学生配布)に、公演情報を毎号掲載した(年6回各10万部発行)。

▽ 施設ホームページのウェブアクセシビリティの確保

・札幌市公式ホームページウェブアクセシビリティの方針に準じて、アクセシビリティの維持・向上に努め、ホームページの更新を行った。

・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行った。令和5年度もSNS等を活用し、公演情報や事業案内の発信を適宜行い、集客につなげることができた。

・札幌市内だけではなく、北海道内の幼稚園や保育園等からの団体観劇に係る問い合わせが増えてきている。今後の施設利用にもつながることから、案内リーフレットを作成して、積極的に劇場での団体観劇をPRしていきたい。

・ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを作成した。

A	B	C	D
利用者のニーズに合わせ、あらゆる広報手段を活用して、積極的に情報発信をおこなっている。引き続き、紙媒体、ホームページ、SNS、メール通信それぞれの強みを活かした情報発信の手法を検討し、効果的な広報活動に努めること。			

	▽ 引継ぎ業務 前回指定管理者から継続指定のため、該当事例なし。													
2 自主事業その他														
▽ 自主事業														
▼ 物品販売事業 市民サービスの一環として、ハンドパペットやオリジナルグッズなどの販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助やリピーターの確保などにつなげ、公演の活性化を図った。 実施期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日 販売商品： ①ハンドパペット・指人形等：金額 500円～700円 ②オリジナルグッズ：金額 50円～1,785円 【販売実績】 ①ハンドパペット・指人形等：販売個数 79個 49,200円 ②オリジナルグッズ：販売個数 791個 売上額 141,650円 合計：販売個数 870個 売上額 190,850円 ▼ 飲料販売事業 劇場に公演観劇に来られる来館者や、稽古や舞台仕込みで利用される劇団利用者などに対して飲料の清涼飲料水の販売を行い、市民サービスの向上を図った。 実施期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日 販売商品：清涼飲料水110円～180円 【販売実績】 販売本数：清涼飲料水 3,253本 収入額：34,665円(使用料、電気代相当額) ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 第三者に対する業務委託、物品の調達などを行うにあたり、札幌市内の企業などを積極的に活用した。	・物品販売業務では、前年度の売上額を下回った。次年度は、市民の声からニーズを探り、新たな商品開発を進める。 ・飲料販売事業の売上本数は、夏期の公演での飲料水需要が高かったこと、来館者数が回復するのに比例して売上本数が上がったことから、前年度を上回ることができた。 ・引き続き、札幌市内の企業及び福祉施設への配慮を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。</td> </tr> <tr> <td colspan="4">引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。				引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。			
A	B	C	D											
子どもが児童劇及び人形劇等の活動に対して興味を持つ契機となる事業である。引き続き、来館者のニーズを取り入れながら、事業展開を行うこと。														
引き続き、市内企業及び福祉施設への配慮をおこなうこと。														
3 利用者の満足度														
▽ 利用者アンケートの結果														
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="280 1397 379 1675">実施方法</td> <td data-bbox="379 1397 995 1675">観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和5年4月～令和6年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者にアンケート用紙を配付し回収した。任意記名方式。)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="280 1675 379 1955">結果概要</td> <td data-bbox="379 1675 995 1955">アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。</td> </tr> </table>	実施方法	観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和5年4月～令和6年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者にアンケート用紙を配付し回収した。任意記名方式。)	結果概要	アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。	・全体的に総合満足度や職員の接遇に関して、高い評価をいただき目標を達成した。 ・劇場における清掃について、清潔な施設で気持ちよく利用できたという声を多くいただくことができた。今後も市民のニーズを把握し、観劇する環境を整えていく。 ・情報を得る手段としてSNSの割合を高め、従来のホームページや紙媒体の割合にまで近づけることで、観劇や利	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。 アンケートの結果は、要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。 アンケートの結果は、要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。			
実施方法	観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、令和5年4月～令和6年3月の期間で実施した。(※アンケート方法については、来館者にアンケート用紙を配付し回収した。任意記名方式。)													
結果概要	アンケート結果を集約し、利用者の意見、要望、苦情、ニーズ等を把握し、施設設備、業務等の改善に反映させるよう努める。なお、回収したアンケートについては、札幌市個人情報保護条例に基づき、取り扱いに十分留意し、保管整理している。													
A	B	C	D											
観客・利用者(劇団)・事業別参加者と3種類のアンケートを実施しており、それぞれのニーズを把握し、よりよい施設運営に反映させようと努力しており、評価出来る。 アンケートの結果は、要求水準を達成しており、観客、利用者、事業参加者のほぼ全てが職員の対応や事業内容に対して満足していることが分かる。														

<p>利用者からの意見・要望とその対応</p>	<p>【観客用アンケート】</p> <p>▼ 回収枚数2,206枚(目標1,200枚を達成)</p> <p>▼ 回答者の年代は、子育て世代の20～40代の回答が前年度より上がり38.7%となった。41～60代の回答が42%となり、三世代に渡り劇場を利用していることがわかった。</p> <p>▼ 公演情報の取得方法では、「友人・知人」が最も多く(28.2%)、次いで「劇場ホームページ」(24%)、「ポスター・チラシ」と「劇場通信」(13.1%)となった。前年度と取得方法の順位は変わらないものの、「Instagram」が前年度0.6%に対し今年度は2.2%と割合を高めた。</p> <p>▼ 観劇環境については、どの項目も4.5以上という高い評価を得ることができた。</p> <p>【利用者(劇団)アンケート】</p> <p>▼ 回収18枚(目標20枚をわずかに下回った。)</p> <p>▼ 支援体制(施設の環境、サポート体制)及び、施設サービス(利用のしやすさ、職員の対応)の項目については引き続き高い評価を得ることができた。施設の利用申込方法や手続きの仕方についても前年度の評価(4.1)を上回ることができた。</p> <p>【事業別参加者アンケート】</p> <p>▼ 主催事業より、実施した講座など11事業についてアンケートを実施し、219枚回収した。</p> <p>▼ 事業内容及び職員の対応や講師について、全ての参加者から高評価をいただき、満足度も高かった。</p>	<p>用を検討する市民が増えると考ええる。</p> <p>・「Instagram」の割合が高まったことは今後の広報手段を考える上で注視したい動向だといえる。媒体に合わせて画像や動画などの視覚情報を今後さらに提供することを検討していきたい。</p> <p>・劇団アンケートの結果から、職員の対応や支援体制について高い評価をいただいた。今後も引き続き、利用者と良好な関係を築く中で新たなニーズを引き出し、施設運営に生かしていきたい。</p> <p>・一様に満足度は高く、ニーズに合致した事業展開と読み取れる。今後も職員・講師間での情報共有、検討を行い、より良い事業実施につなげていきたい。</p>	<p>これは指定管理者の努力の結果であると考えられる。引き続きサービス水準を維持するよう努めるとともに、施設利用者の意見を把握し、管理運営に活かすこと。</p>
-------------------------	---	--	--

4 収支状況

▽ 収支 (千円)				A	B	C	D
項目	R5計画	R5決算	差(決算-計画)				
収入	72,848	62,476	▲ 10,372				
指定管理業務収入	72,468	62,251	▲ 10,217				
指定管理費	45,901	47,379	▲ 1,478				
利用料金	6,500	5,303	▲ 1,197				
その他	20,067	9,569	▲ 10,498				
自主事業収入	380	225	▲ 155				
支出	73,682	62,763	▲ 10,919				
指定管理業務支出	73,609	62,729	▲ 10,880				
自主事業支出	73	34	▲ 39				
収入-支出	▲ 834	▲ 287	547				
利益還元	0	0	0				
法人税等	0	0	0				
純利益	▲ 834	▲ 287	547				

▽ 説明

▼ その他収入のうち、受取助成金が当初予定を下回った。事業規模等を当初計画から変更して実施することはできたが、次年度以降、安定した収益増を目指して検討を進める。

・令和6年度以降も指定管理業務に係る収支のバランスを考慮し、安定的な運営をしていきたい。

A B C D
助成金の一部不採択により収入が大きく減少したが、予定していた企画内容の変更や維持管理費の節約等の自助努力により収支差はほぼ前年度並みとなっている。次年度以降も引き続き、安定的な運営に向け、改善を続けること。

<p>▼ 指定管理業務支出は、昨今の観光需要の増加に伴う宿泊施設の価格高騰や、物価上昇に係る消耗品や備品購入費用、役務に係る費用の高騰があったものの、事業規模等を当初計画から変更したことから支出の総額は当初計画より抑制することができた。</p> <p>▼ 自主事業は、劇場オリジナルグッズの物品販売と自動販売機による飲料販売を行い好評を得た。特に飲料販売は、来館者数が回復するのに比例して売上本数が上がった。</p>		
--	--	--

<p><確認項目> ※評価項目ではありません。</p>		
<p>▽ 安定経営能力の維持</p> <p>▼ 当団体の財務状況等は、各事業実施時において収支バランス等を常に把握することで、将来へ向けた安定経営能力は選定時より向上している。</p>		<p>適 不適</p>
<p>▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応</p> <p>▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。</p> <p>▼ 情報公開請求はありません。</p> <p>▼ 札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。</p> <p>▼ 協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。</p>		<p>適 不適</p>

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>令和5年度は、やまびこ座が35周年を迎えた記念の年であった。人形劇場こぐま座も、市民劇団と手を携えて夏休みに記念事業を実施した。人形劇の連続公演や、落語や動物を題材にした公演など、多彩な企画で多くの方にご来場いただいた。演じ手も観客も皆が笑顔あふれる場となったのは、両劇場で築いてきた人材育成を根幹に据えた運営の賜物であり、改めてこの節目に劇場の取組と事業を発信できたことの意義は大きい。</p> <p>その他、今年度事業の特徴的な取組として、事業の重点としている、共生社会実現に向けた事業のレベルアップが挙げられる。</p> <p>文化庁から受託した「障害者等による文化芸術活動推進事業」のうち、「パペットアートヴィレッジ」を新規に実施した。「共に創りあげる」ことをテーマにした舞台表現活動プログラムに、障がいの有無にかかわらず、子どもを中心に様々な年代の方に参加いただいた。人形劇を中心に音楽、ダンス、工作、野外活動の要素を盛り込み、遊びをとおして子どもたちが発する言葉や気持ちに皆が寄り添い、多様な特性のある子どもたちが自分のペースで参加できる活動を重ねて舞台作品を創作し、多くの観客の前で演じることができた。また、養護学校や特別支援学級での人形劇鑑賞等の文化体験ワークショップをはじめ、さまざまな家庭の事情により劇場に足を運べない子どもたちにも観劇の機会を提供するため、巡回公演や貸切公演、各種ワークショップを実施した。</p>	<p>基本方針 『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』</p> <p>こども人形劇場は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」(札幌市こども劇場条例)を目的として設置された施設である。全国的にも数少ない子どものための専門劇場として、「子ども文化」を育むことで生み出される人と人のつながりにより、こころ豊かな未来を描くことができる、地域の文化拠点を目指す。</p> <p>こども人形劇場において子どもたちが文化芸術に触れることで情操豊かに育つことに加え、それを支える市民劇団を育成する中で醸成される地域コミュニティ創造を目指す事業を積極的に展開する。</p> <p>市民に寄り添う人材育成を事業の根幹に据え、舞台創作を支える専門性に加え、人と人をつなぐ導く能力の向上を目指す。「ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)」機能を有した事業展開のレベルアップと収益源の多様化について重点的に戦略立てて進める。</p> <p>重点取組事項 (1) 児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・講座等の実施</p> <p>① 野外人形劇シリーズ ② 障がい児との文化芸術推進事業 ③ 舞台手話通訳付人形劇レギュラー公演プロジェクト</p>

<p>札幌演劇シーズン実行委員会と共催で、舞台手話通訳者の養成講座を実施した。令和3年度より当劇場で製作、上演に取り組んできた、障がい児童と創る人形劇「北のおばけ箱」で取り入れたムーブアラウンド形式の手話通訳が評価されたことをきっかけに企画された講座で、日本ではまだ馴染みが浅いものの海外では一般的なサポートとして普通に行われている「舞台手話通訳」の担い手を育成し、健聴者も聴覚障がい者も一緒に楽しめる観劇が日常となることを目指して取組を進めた。共生社会実現に向けた文化芸術からのアプローチにより、誰もが舞台に触れられる社会の創造を目指した。</p> <p>①数値実績 年間公演回数は目標200回に対して201回(達成率100.5%)と達成されたものの、その他、総利用者数は55,000人目標に対して49,807人(達成率90.6%)、ホール稼働率は目標80%に対して69.3%(達成率86.6%)となった。様々な要因と複合的な状況が考えられるものの、対象者に届く広報の手法や稼働率向上の方策を、時代に合わせていくことが喫緊の課題である。</p> <p>②収支状況 助成金の一部不採択により見込んでいた収益には届かない結果となった。それに伴い、当初計画していた道外の専門劇団の招へい公演は内容変更を余儀なくされた。様々な工夫による経費縮減を図り、新規の事業受託による増収もあったが、結果としてマイナス決算となった。改めて劇場の役割を踏まえ、社会の求めに則した提案により安定的に事業費確保を行う。</p>	<p>④北海道の創作人形劇さっぽろパペットシアタープロジェクト「北のおばけ箱3」</p> <p>⑤中島児童会館連携事業</p> <p>(2)子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報の収集・調査研究・立案及び提供 ①SNSを活用した広報</p> <p>(3)劇団支援に関する業務 ①依頼公演に対応する機材貸出</p>
---	---

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>施設の維持管理、貸館業務、事業の実施、自主事業、及び施設の管理運営については全般的に適切な業務の執行がなされている。</p> <p>施設全体の利用者数やホール稼働率は事業計画に届かなかったものの、障がい児との舞台芸術制作のほか、舞台手話通訳の担い手を育成や、養護学校と特別支援学級での人形劇鑑賞等の文化体験ワークショップを行うなど共生社会の実現に向けた文化芸術からのアプローチを実施しており、地域の子ども達に寄り添った札幌市の児童文化の拠点施設として、その普及・促進に取り組んでいると評価できる。</p>	<p>施設の設置目的を達成するため、今後とも制作団体の育成を行っていく必要があることはもちろんのこと、より多くの利用者に多様な体験機会を提供するため、引き続き市民ニーズを検証し、より魅力的な創意工夫ある事業を展開していくこと。</p> <p>また、今後も経費節約に努めるとともに公演事業等の拡充に取り組むことで安定した管理運営を図ること。</p>